

学校関係者評価書

平成24年度 第1回

南アルプス市立白根百田小学校

第1回 学校関係者評価委員会

- 1 実施日 平成24年8月31日(金) 午後4時00分～6時00分
- 2 会場 白根百田小学校校長室
- 3 参加者 学校関係者評価委員
小野 俊文(教育振興会会長) 小池 正彦(教育関係有識者)
中澤 幸雄(百々育成会会長) 内藤ふじ子(主任児童委員)
小野みどり(保護者代表・PTA副会長)
学校職員
石川 正人(校長) 大柴 俊彦(教頭)
田原 和仁(教務主任) 杉山 明美(生徒指導主任)
- 4 学校から提案された内容
 - (1) 学校評価システム並びに学校関係者評価についての概要説明(校長)
 - (2) 学校の自己評価について説明
教職員による自己評価(教務主任)
児童アンケート(生徒指導主任)
保護者アンケート(教頭)
2学期からの具体的改善プラン(校長)
- 5 協議されたおもな内容
 - (1) 教職員による評価、児童アンケート、保護者アンケートについての考察とアドバイス

学校関係者評価

教職員による自己評価について

教職員の自己評価は、自分たちについて厳しく評価している。学校の様子を見ていると、グラフの白い部分(「そう思う」という肯定的な回答)がもっと多くなっていいのではないかと。教職員が、自分たちの実践は本当にこれでいいのだろうかと思いながら書いていることがわかる。教育についての考え方がたびたび変わり、教職員がとても苦労している姿がうかがえる。

先生たちの多忙さがとてもよく現れている。保護者の価値観が千差万別であったり、マスコミの取り上げ方にも問題があり、学校や教職員が自分や組織を守るための手続きに多くの力を割かれていて、多忙さに拍車をかけていることも考えられる

教職員が自信を持って教育活動にあたるよう支援していきたい。

児童のあいさつが良くなってきているのは、地域にいても感じ取ることができる。

管理職のカラーで学校の雰囲気は変わる。今のように明るく開放的な雰囲気を保ってほしい。

児童アンケートについて

割合は少ないが、グラフで黒くなっている(否定的回答の)児童の心を探れるとよい。アンケートではわかりにくい部分だが、注目してみる必要がある

学校が楽しくない児童の中には、特に学校が嫌いというわけではなく、家庭で自由にしているのと比べて言っているケースもかなりあることが想像される。楽しくない理由を聞いてみるのもよい。

子どもたちが先生を信頼している様子がうかがえる。(設問13・14・15・16)

7「授業で分からないことなどを進んで質問している」8「自分で考えたことを進んで発表している」については、このための時間が十分とれているかどうかもある関係がある。ここにも教育課程の過密さの影響が出ていることが推察される。

「手を上げても当ててくれないので、発言しない」という子もいる。いろいろな子に当ててあげられる工夫をお願いしたい。

保護者アンケートについて

学力については、どこまで「学力」ついていけばいいのかという「ものさし」が分からなかったり、そもそも「学力」とはどのようなことなのかが分からなかったりして、マスコミを始め様々な情報と相まって、保護者の不安感が高まっていることが考えられる。難しい課題ではあるが、みんなでも共有しながら、学力向上に努められたい。

保護者アンケートについては、学校のことを本当によく知っているのか疑問である。学年・学級懇談の出席率がよくないようだが、先生の話や違う親の意見を聞くのはあたりまえのことである。

「保護者の仕事が多忙である」という意見も聞くが、それだけとも言い切れないケースがある。保護者には学年・学級懇談に出席して、学校のことを良く理解することを望みたい。また、学校やPTAには、空いている教室を利用して臨時的「託児所」を開設するなど、出席率向上の工夫をされたい。

すべてに関わって

アンケートを見て、先生たちの考えていることや子どもたちの考えていることがとてもよくわかった。

地域教育の一環として、育成会も活発に活動している。言い尽くされたことではあるが、学校・保護者・地域が手を取り合って、児童の健全育成に努めてくれることを希望する。

教師も保護者も「本気で子どもとつきあう」ことが大切である。大人が本気でつきあってくれないのが子どもに伝わっていく。今、大人の本気度が試されている。

評価書作成責任者

学校関係者評価委員会委員長(PTA会長) 小野 晃利